

山口県岩国市における
アマミサソリモドキの採集記録

佐伯 英人

「山口県の自然」第77号（2017年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

山口県岩国市におけるアマミサソリモドキの採集記録

佐伯 英人¹⁾

1. はじめに

アマミサソリモドキ *Typopeltis stimpsonii* は、クモガタ綱サソリモドキ目（ムチサソリ目）サソリモドキ科に属する節足動物である。本種の体長は40mm程度（鞭部〔尾鞭〕を除く）、体色は黒褐色、頭胸部に触肢と4対の歩脚がある。雄の触肢は、桿状突起（膝節（根元から第3節）の内側の突起）が外側に反り返り、脛節（根元から第4節、別名：筈節）内側にイボ状の顆粒が無い、転節（根元の節）内側の突起の末端が尖る。雌の生殖板は、中央のくぼみが環状である（国立環境研究所の「侵入生物データベース；下謝名，2015）。

近似種にタイワンサソリモドキ *T. crucifer* がある。タイワンサソリモドキの雄の触肢は、桿状突起がほぼ垂直に伸び、脛節（別名：筈節）内側にイボ状の顆粒が並び、転節内側の突起の末端が丸未みをおびる。雌の生殖板は、中央のくぼみがY字状である（下謝名，2015）。

本種とタイワンサソリモドキは、上記のように雄の触肢、雌の生殖板の形態の違いにより識別することができる。

本種は、国立環境研究所の「侵入生物データベース」に掲載されており、自然分布、国内移入分布、侵入経路について、次のように記されている。自然分布については「伊是名島、徳之島、奄美大島、トカラ列島、大隅諸島（口永良部島、硫黄島、竹島）、薩摩半島、上甕島、天草市牛深（牛深の個体群は人為分布の可能性あり）」、国内移入分布については「八丈島（伊豆諸島）に定着している。牛深（熊本県天草市）の個体群も外来である可能性が指摘されている。また、本州・四国各地で、偶発的に発見されている」、侵入経路については「八丈島の樫立地区の農園が奄美大島から搬入したソテツへの混入の可能性が指摘されている」と記されている。

2. 経緯

2016年10月4日、岩国市在住の塩冶城一氏により、岩国市科学センターに本種1個体（生体）が持ち込まれた。本稿では、この個体を個体Aと称する。個体Aは前日（2016年10月3日）、岩国市新港町2丁目で塩冶氏が採集したものであった。2016年10月5日、岩国市科学センターの廣實眞一氏が、この個体Aの写真を撮影した。写真を図1に示す。同日（5日）、廣實氏より筆者にメール（添付資料：図1の写真）があり、筆者は図1の写真をもとにサソリモドキの1種と同定した。この個体Aの同定については「3. 同定」で後述する。同日（5日）、岩国市科学センターより岩国市環境部環境保全課にサソ

1) SAIKI, Hideto 山口大学教育学部（〒753-8513 山口市吉田1677-1）

リモドキについて問い合わせをしたところ、環境保全課より「特に人体に害を及ぼす生物ではなく、特定外来生物でもないので問題なし」という回答があった。また、同日（5日）、岩国市科学センターより岩国環境保健所に問い合わせをしたところ、山口県環境生活部自然保護課自然・野生生物保護班より「特定外来生物ではないので県としては特に注意喚起はしていない」という回答があった。そのため、この個体は2016年10月7日に塩冶氏に返却された。その後、この個体はネコ*Felis silvestris catus*に食べられ、消失した。

塩冶氏は、この他に2個体を採集していた。本稿では、この2個体を個体B、個体Cと称する。塩冶氏によると個体Bの採集日は2016年4月24日、個体Cの採集日は2016年8月下旬であった。採集した場所は、個体B、個体Cともに岩国市立石町1丁目であった。この2個体は採集時、死亡していた（塩冶氏、私信）。採集日に塩冶氏が撮影した個体Bの写真を図2に示す。個体B、個体Cは2016年11月13日に岩国市科学センターに寄贈された。

この他、2016年9月28日、岩国市立石町1丁目で1個体（生体）を塩冶氏が目撃し、動画で撮影した。しかし、この動画で撮影した個体を採集することはできなかった（塩冶氏、私信）。動画で撮影された個体が、個体Aであるのか、また、別の個体（4個体目）であるのかは不明である。

上記の経緯の一部は、塩村忠勝氏（「日刊いわくに」の記者）が取材し、2016年11月16日の新聞「日刊いわくに」（第2390号）の1面記事（主題「市内にサソリモドキ？」、副題「複数の個体を発見・捕獲 奄美の生物 繁殖の可能性も」）に掲載された（付図）。

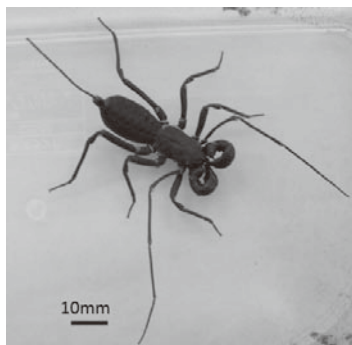


図1 個体A
（撮影日：2016年10月5日、
撮影者：廣貴眞一氏）

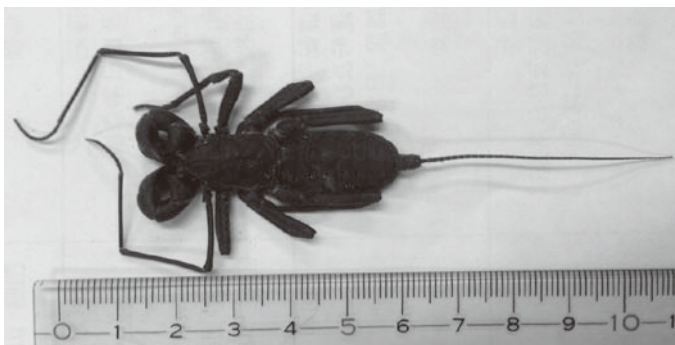


図2 個体B
（撮影日：2016年4月24日、撮影者：塩冶城一氏）

3. 同 定

2016年12月10日、岩国市科学センターに筆者が出向き、寄贈された個体（個体B、個体C）をもとに同定した。歩脚や尾鞭の一部を欠くなど各個体の保存状態は良好ではなかったが、触肢と生殖板の形態をもとに同定することはできた。個体Bの触肢付近のようすを図3に示す。図3を見ると、個体Bの触肢の桿状突起が外側に反り返っていること、また、転節内側の突起の末端が尖っていることが分かる。個体Cの生殖板付近のようすを図4に示す。図4を見ると、個体Cの生殖板は、中央のくぼみが環状であることが分かる。そこで、個体Bを本種の雄、個体Cを本種の雌と同定した。なお、体長（鞭部〔尾鞭〕を除く）は、個体Bが40mm、個体Cが44mmであった。

一方、個体Aの写真を拡大して見ると、触肢の桿状突起が外側に反り返り、また、転節内側の突起の

末端が尖っているように見える。拡大した画像の画質が粗いため、断定はできないが、個体Aは本種の雄の可能性が高いと思われる（図5）。



図3 個体Bの触肢付近のようす
(撮影日：2016年11月30日，
撮影者：塩村忠勝氏)

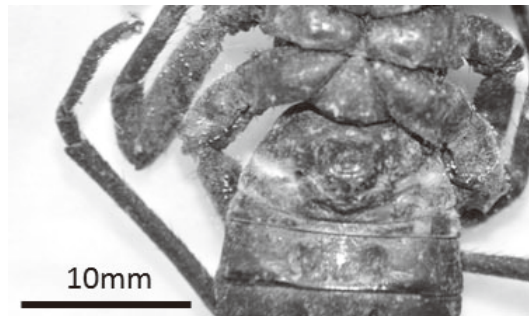


図4 個体Cの生殖板付近のようす
(撮影日：2016年11月30日，撮影者：塩村忠勝氏)



図5 個体Aの触肢付近のようす
(図1の触肢付近を拡大した写真)

4. おわりに

前述した2016年11月16日の新聞「日刊いわくに」（第2390号）に掲載された時には、種の同定まではできていなかった。このたび、採集された個体の種が明らかになったため、ここに報告する。

次年度（2017年度）以降も、同地（岩国市新港町2丁目及び立石町1丁目）付近において、本種が生息しているのか否かを調べる必要がある。また、本種の侵入経路も現在、明らかになっていない。今後、本種がどのような経路で侵入したのかを調べる必要がある。

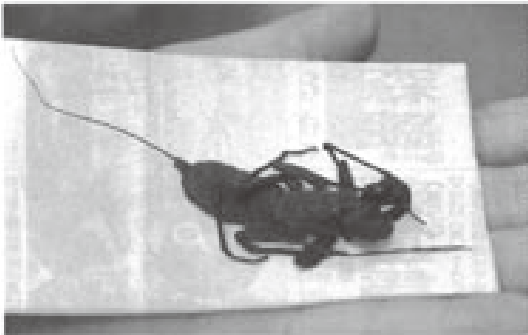
付 記

2016年12月10日、岩国市科学センターに筆者が出向いた際、寄贈された個体（個体B、個体C）を標本にした。現在、それらの標本は岩国市科学センターで保管されている。

文 献

- 下謝名松栄（2015）「クモガタ綱サソリモドキ目（ムチサソリ目）」pp.721-723.In：青木純一編（2015）『日本産土壌動物 分類のための図解検索【第二版】』，東海大学出版部，1969pp.
- 国立環境研究所（n.d.）「侵入生物データベース アマミサソリモドキ」Retrieved from <http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70500.html>

市内にサソリモドキ?



複数の個体を発見・捕獲

奇美の生物 繁殖の可能性も

【本紙記者の取材】 岐阜県津市で、サソリモドキの成虫が複数発見された。この生物は、サソリと似た外見だが、サソリとは異なり、毒針はない。繁殖の可能性も指摘されている。

津市で発見されたサソリモドキの成虫は、体長約1センチメートル、黒く光沢のある体を持つ。サソリに似た外見だが、サソリとは異なり、毒針はない。発見されたのは、津市の市立公園で、市民が散歩中に発見した。発見されたのは、津市の市立公園で、市民が散歩中に発見した。発見されたのは、津市の市立公園で、市民が散歩中に発見した。



津市で発見されたサソリモドキの成虫は、体長約1センチメートル、黒く光沢のある体を持つ。サソリに似た外見だが、サソリとは異なり、毒針はない。発見されたのは、津市の市立公園で、市民が散歩中に発見した。発見されたのは、津市の市立公園で、市民が散歩中に発見した。

津市で発見されたサソリモドキの成虫は、体長約1センチメートル、黒く光沢のある体を持つ。サソリに似た外見だが、サソリとは異なり、毒針はない。発見されたのは、津市の市立公園で、市民が散歩中に発見した。発見されたのは、津市の市立公園で、市民が散歩中に発見した。

付図 2016年11月16日の新聞「日刊いわくに」(第2390号)の1面記事